

平成 26 年 12 月 30 日

筑波大学若手教員の海外出張活動へエール
(マレーシア、サテライトオフィス報告)

いわゆる日本の暮れの押し迫った 12 月 29 日に筑波大学准教授野村名可男先生がマレーシア・日本国際工科院 (MJIT) の筑波大学サテライトオフィスを訪問した。

目的はマラヤ大学への筑波大学学生派遣にかかる許可と手続きの打ち合わせ、マレーシア工科大学 (UTM) および MJIT との教員・学生交流、共同指導のさらなる強化、今後のジョイントディグリープログラムの進め方などのため。昨年は、筑波大学と MJIT の共同指導による筑波大学の学生受け入れ数が他の JUC 加盟大学 (25 大学) に比べ、非常に多く活発化してきたため今後、連携協定を見直す必要があることを共有した。ジョイントディグリープログラムに関しては、MJIT との LOI の協定を踏まえ、来年は MOA の具体的草案について辻村真貴教授を中心に早めに作成を検討していくことで意見が一致した。

話し合いには、山本隆司副院長をはじめ、MJIT の EGT メンバーである後藤雅史教授、原啓文准教授、岩本浩二准教授そして杉浦則夫特命教授が参加した。山本隆司副院長からは、今年は筑波大学の MJIT への貢献実績が極めて高く今後、さらに教育研究交流に力をお借り願いたいとお言葉をいただいた。

野村名可男先生はその日の午後すぐにマラヤ大学に向かった。そして予定では、当日の夜、日本へ戻るとお聞きし、わずか 1 日の滞在であり、筑波大学の若手の先生の活動、活躍が実感として残った。



左から岩本浩二先生、野村名可男先生、杉浦 (文責)